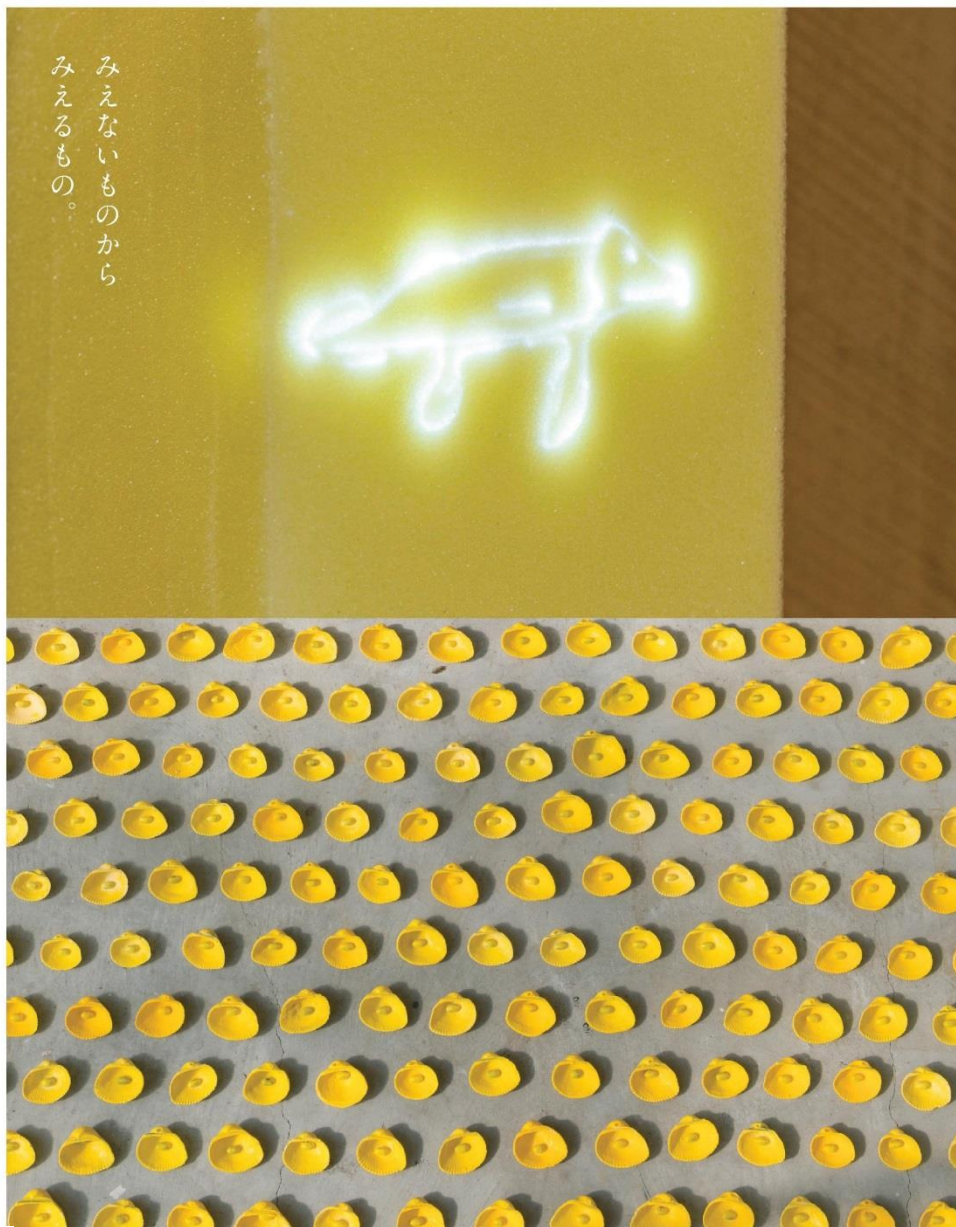


PRESS RELEASE

art trip vol.02 | The State of this World:Thought and the Arts

思考／芸術



この世界の在り方

会 期	2016年12月10日(土)－2017年2月12日(日)
開館時間	午前10時－午後5時(入館は午後4時30分まで)
会 場	芦屋市立美術博物館 エントランスホール、第1展示室、第2展示室
休 館 日	月曜日(但し、1/9は開館、1/10は休館)、年末年始(12/28-1/4)
観 覧 料	一般 600(480)円、大高生 500(400)円、中学生以下無料 ※同時開催「昔の暮らし」展の観覧料も含む ※()内は20名以上の団体料金 ※高齢者(65歳以上)および身体障がい者手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳を お持ちの方ならびにその介護の方は各当日料金の半額になります。 ○観覧料無料の日:12月25日(日)、2017年1月22日(日)

主 催	芦屋市立美術博物館
助 成	公益財団法人三菱UFJ信託地域文化財団
協 賛	株式会社オーエス
後 援	兵庫県、兵庫県教育委員会、兵庫県社会福祉協議会、公益財団法人兵庫県芸術文化協会、神戸新聞社、NHK 神戸放送局、FM802
協 力	京福電気鉄道株式会社、横田茂ギャラリー、タカ・イシイギャラリー

PRESS RELEASE

開催趣旨

本展では、立体、平面、映像などの現代美術の作品と併せ、当館コレクションの近現代美術作品や考古・歴史資料を展示し、「思考」について考えていきます。

見えるものと見えないものの関係性をテーマに 1960 年代から国内外で活躍する河口龍夫、刺繍作品や彫刻、アニメーションなどの手法で日常の断片を紡ぎ出す伊藤存、映像や文字や音のズレから意識の焦点を揺り動かす小沢裕子、自然光や電灯などあらゆる光を収集し、それらを構成要素とする映像作品を発表する前谷康太郎。

現実には、見えているものだけが全てではなく、見えていない世界も確かに存在しているという事実。一つの視点で物事をとらえる危うさは大きく、この世界が向き合っている真実を見据え、見えない部分を想像し、多様な視点で認識するための力の重要性はますます高まりつつあるでしょう。

彼らが生み出す作品は、見える事実とその向こう側にある真実を気付かせてくれ、この世界のとらえ方を再考する手がかりを提示してくれると考えます。

本展が、自らの考えや思いを導き出す「思考」を深める場として、存在したいと願っています。

展覧会の特徴

「art trip」シリーズは、当館コレクション作品とともに現代美術作品を紹介する展覧会です。この度、シリーズ第 2 弾として、思考をテーマとした特別展「この世界の在り方 思考／芸術」を開催します。

今回、出品作家 4 名と談論を重ね、当館コレクションの作品や資料の中から展示作品を選定しました。ナウマン象の歯の化石や土器といった考古資料、小杉武久や菅野聖子の美術作品などが、インスタレーション作品の一部として存在したり、作品と並置させ趣旨をリンクさせる試みを行うなど、時間と空間を飛び越えた方法で展覧会を構成します。

各作家の新作や新たに構成されたインスタレーション作品から、「思考」することについての再考と、「この世界」を考察する場を作ります。

1. 「思考を深める場として」

現在、地球上では天変地異や人間同士の諍いが起こり、多くの人々が悲しみを深めています。世界で起こっている事象は、テレビや新聞、インターネット、SNS などで情報発信されています。それらの情報から、我々は両極に存在する「答え」をそれぞれ選択し支持していますが、選択するための情報源を無意識に選別している場面もあり、一方からの視点で物事を判断していることがあります。そして、情報として得た「他人の意見」を十分に考えぬまま「自分の見解」として受容していることもあるのではないのでしょうか。カントは述べます。「感性なしでは対象が与えられないし、知性なしでは対象を思考することができない。内容のない思考は空虚であり、概念のない直観は盲目である」(中山元訳『純粹理性批判』)

思考は人間を成長させてくれます。本展に触れた方々にとって、感性を高め、見えない世界を想像し思考を深めていただく場になりたいと考えます。

2. 会期中、さまざまなイベントを予定

オープン初日には、出品作家 4 名が自作を前にアーティストトークを行うほか、1 月には、伊藤存がメンバーとして活動する「山／完全版」の別バージョン「山／抽象版」と小沢裕子とのライブパフォーマンス、河口龍夫と京都国立近代美術館長の柳原正樹氏による対談、前谷康太郎がこれまでに手がけた映像作品の上映会を開催し、関連イベントからも「思考」を体験していきます。

PRESS RELEASE

出品作家

河口 龍夫
Kawaguchi Tatsuo



撮影：齋藤さだむ

1940年兵庫県生まれ。1962年多摩美術大学絵画科卒業。現在、千葉を拠点に国内外で活動。1965年グループ「位」結成。1974年第1回井植文化賞(文化芸術部門)受賞。1975年文化庁芸術家在外研究員として欧米に滞在。1983年筑波大学芸術学系助教授。1991年筑波大学芸術学系教授(2003年退官)。2004年筑波大学芸術学系名誉教授、倉敷芸術科学大学教授、京都造形芸術大学客員教授。2014年金沢美術工芸大学教授。見えるものと見えないものの関係性をテーマに作品の制作を続ける。主な個展に「河口龍夫—時間の位置」(川口市立アートギャラリー・アトリア/2016)、「河口龍夫—闇の時間」(カスヤの森現代美術館/2015)、「光あれ！河口龍夫—3.11 以後の世界から」(いわき市立美術館/2012)、「河口龍夫展 言葉・時間・生命」(東京国立近代美術館/2009)、「河口龍夫—見えないものと見えるもの」(兵庫県立美術館、名古屋市美術館/2007)ほか。主なグループ展に「Re:play 1972/2015—「映像表現'72」展、再演」(東京国立美術館/2015)、「瀬戸内国際芸術祭 2010」小豆島(香川県/2010)、「痕跡—戦後美術における身体と思考」(京都国立近代美術館、東京を巡回/2012)、「大地の魔術師たち」(ポンピドゥー・センター パリ国立近代美術館/1989)、「東京ビエンナーレ 1970 人間と物質」(東京都美術館ほか/1973)ほか多数。

伊藤 存
Ito Zon



1971年大阪府生まれ。1996年京都市立芸術大学美術学部卒業。現在、京都を拠点に国内外で活動。刺繍の作品をはじめとして、アニメーションや小さな立体制作にも力を入れている。主な個展に「ふしぎなおどり」(タカ・イシイギャラリー東京/2016)、「三つの個展：伊藤存、今村源、須田悦弘」(国立国際美術館/2006)、「きんじょのはて」(ワタリウム美術館/2003)ほか。主なグループ展に「現代ドローイング国際芸術祭「トゥー・スティックス」」(プロトワフ建築博物館/2015)「磯部湯画廊／磯部湯活用プロジェクト」(群馬県前橋市/2013)、「世界制作の方法」(国立国際美術館/2011)、「プライマリー・フィールドⅡ：絵画の現在 — 七つの〈場〉との対話」(神奈川県立近代美術館 葉山/2010)、「Louisa Bufardecì & Zon Ito」(シドニー現代美術館/2009)、「ライフがフォームになるとき：未来への対話／ブラジル、日本」(サンパウロ近代美術館/2008)ほか多数。

小沢 裕子
Ozawa Yuko



1984年千葉県生まれ。2009年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油絵コース修了。現在、東京を拠点に活動。映像や文字や音のズレから意識の焦点を揺り動かす作品を制作している。主な個展に「それは持っています、そして私のすべてだけですか？」(Art Center Ongoing /2015)、「エマージェンシーズ！023 小沢裕子／無名の役者たち」(ICC/2014)、「ある小話／作家ドラフト 2012」(京都芸術センター/2012)、「スピーチ」(現代 HEIGHTS Gallery/2010)ほか。主なグループ展に「トランス／リアル—非実体的美術の可能性」(gallery αM /2016年)、「高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.4 リアルをめぐって」(高松市美術館/2014)、「小沢裕子・村山悟郎—「私」のあらわれ—」(日本橋高島屋美術画廊X/2012)、「群馬青年ビエンナーレ」(群馬県立近代美術館/2008,2010,2012)、「ForRent！ For Talent！ 2」(三菱地所アルティアム/2006)ほか多数。

前谷 康太郎
Maetani Koutaro



1984年和歌山県生まれ。2008年東京外国語大学卒業。2014年京都市立芸術大学大学院卒業。現在、大阪を拠点に活動。自作の光学装置を用い、撮影対象の通常とは異なる側面を抽出することで、映像と人類のこれまでにない新しい関係性を模索している。この活動は、大学在学時の作品に見られる「映像言語における音素の追求」という背景に端を発している。主な個展に「further/nearer:emergencies!021」(ICC/2014)、「前谷康太郎展 parallel」(CAS/2012)、「(non) existence」(梅香堂/2011)ほか。主なグループ展に「特集展示 光について」(和歌山県立近代美術館/2015)、「KAMA CITY RESIDENCY BIENNALE」(嘉麻市立織田廣喜美術館/2015)、「World in Motion | Maetani Koutaro」(Gallery PARC/2015)、「Art Court Frontier 2013」(Art Court Gallery/2013)、「HANARART 2012」(大和郡山市旧川本邸/2012)、「seasons for Morris lab. / etude for 4 monitors」(森楽ラボ/2010)ほか多数。

PRESS RELEASE

関連イベント

* 全て申し込み不要。直接会場へお越しください。

12月10日(土)
14:00-16:00

(1) オープニングイベント アーティストによるギャラリートーク

講師: 河口龍夫、伊藤存、小沢裕子、前谷康太郎(本展出品作家)

会場: 芦屋市立美術博物館 展示室

参加費: 無料(ただし要観覧券)

1月9日(月・祝)
16:00-17:00
(予定)

(2) ライブパフォーマンス

出演: 山/抽象版×小沢裕子(美術家)

会場: 芦屋市立美術博物館 展示室、講義室、前庭(予定)

定員: 80名

参加費: 無料(ただし要観覧券)

* 「山/抽象版」: 「山/完全版」の別バージョン。2013年デビューのライブパフォーマンスユニット。伊藤存がメンバーのひとりとして活動するバンド。ゆるい散歩を裏側から眺めるような、ずれた風景を描く音律とリズム、ありそうでないような文脈と派生の可能性。逆立ちしながら穴を掘る。ご近所さんの音楽の集いに迷い込む路地奥からのストレンジャー。

1月28日(土)
14:00-15:30

(3) 対談「河口龍夫/思考と芸術をめぐって」

講師: 河口龍夫(美術家)×柳原正樹(京都国立近代美術館長)

会場: 芦屋市立美術博物館 講義室

定員: 60名(どなたでも)

参加費: 無料(ただし要観覧券)

2月4日(土)
15:00-16:00

(4) 上映会/前谷康太郎作品

講師: 前谷康太郎(映像作家)

会場: 芦屋市立美術博物館 講義室

定員: 60名(どなたでも)

参加費: 無料(ただし要観覧券)

12月24日(土)
1月21日(土)
両日とも14:00-
*1時間程度

(5) ギャラリー・トーク

担当: 本展担当学芸員

会場: 芦屋市立美術博物館 展示室

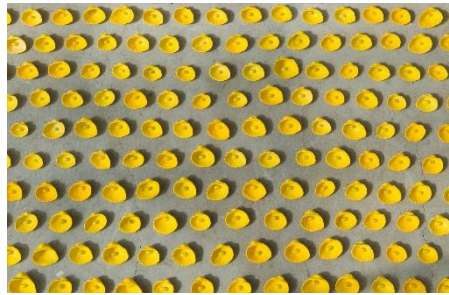
参加費: 無料(ただし要観覧券)

PRESS RELEASE

作品



1



2

本展の画像データをプレス掲載用にご用意しております。ご希望の際は別紙(申込用紙)にご記入のうえ当館までご連絡ください。

1 | 河口龍夫

《関係—浮遊する蓮の船》(部分) 2007年
鉛、蓮、種子(蓮)

2 | 河口龍夫

《真珠になった種子》(部分) 2015年
貝殻、種子(蓮)、蜜蝋、硫化カドミウム、
天然白亜



3



4

3 | 伊藤存

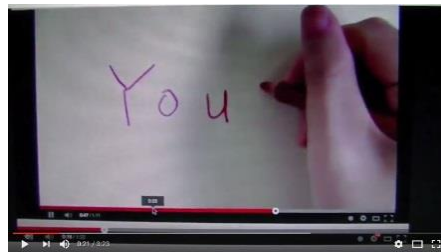
《みえない土地の建築物／前橋》2013年
布に刺繍、マイクスタンド、木 サイズ可変(4
点)

4 | 伊藤存

《むかしからこれまで》より 2015年
映像インスタレーション



5



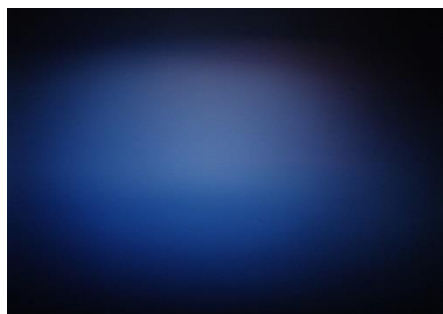
6

5 | 小沢裕子

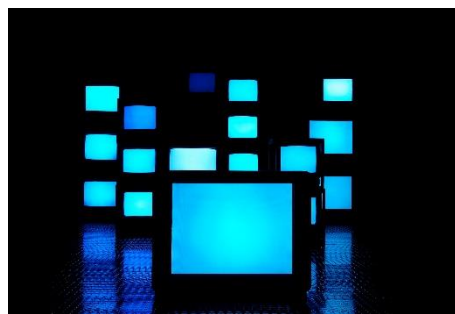
《SERVICE(ATH-200AV)》2016年
11分26秒 映像 ヘッドホン(ATH-
200AV)、モニター

6 | 小沢裕子

《15_1_13(時間の外のこども)》2015年
3分24秒 ビデオ



7



8

7 | 前谷康太郎

《more/less distant》2012年～
デジタル写真

8 | 前谷康太郎

《seasons 2012》2012年
2分 ビデオインスタレーション CRT モニ
ター×18、フレーム、DVD プレーヤー×4、
ビデオスプリッター

* 画像5、6以外は参考図版

問い合わせ先

【企画内容に関して】

担当学芸員:大槻 晃実 TEL:0797-23-2666(学芸直通)

【画像貸出など広報について】

総務課 TEL:0797-38-5432(代表)

芦屋市立美術博物館

〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町 12-25

◇ホームページ: <http://ashiya-museum.jp/>

この世界の在り方 ———— 思考／芸術

FAX 連絡先
(0797)38-5434

ご希望の写真番号に○をつけてご返送をお願いいたします。本展をご掲載いただける場合、読者・視聴者プレゼント用招待券(10組20名様まで)もご用意しておりますので、お気軽にご連絡ください。

番号	作家名・作品名・制作年・素材・所蔵元など
1	河口龍夫 《関係—浮遊する蓮の船》(部分) 2007年 鉛、蓮、種子(蓮) 作家蔵 撮影:齋藤さだむ
2	河口龍夫 《真珠になった種子》(部分) 2015年 貝殻、種子(蓮)、蜜蝋、硫化カドミウム、天然白亜 作家蔵 撮影:柳原写真事務所
3	伊藤存 《みえない土地の建築物／前橋》2013年 布に刺繍、マイクスタンド、木 サイズ可変(4点) アーツ前橋蔵 撮影:表恒匡
4	伊藤存 《むかしからこれまで》より 2015年 映像インスタレーション 作家蔵 撮影:表恒匡
5	小沢裕子 《SERVICE(ATH-200AV)》2016年 11分26秒 映像 ヘッドホン(ATH-200AV)、モニター 作家蔵
6	小沢裕子 《15_1_13(時間の外のこども)》2015年 3分24秒 ビデオ 作家蔵
7	前谷康太郎 《more/less distant》2012年～デジタル写真 作家蔵
8	前谷康太郎 《seasons 2012》2012年 2分 ビデオインスタレーション CRTモニター×18、フレーム、DVDプレーヤー×4、ビデオスプリッター 作家蔵

※番号5、6以外はすべて参考図版

貴社名	
媒体名	(新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・その他)
ご担当者名	
ご住所	〒
電話番号	TEL FAX
メールアドレス	@
URL	
掲載・放送予定日	
写真到着希望日	
招待券希望枚数	組 名分希望

写真データの使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません。本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体(VTR/DVD)などを当館までお送りくださいますようお願い申し上げます。

また本展覧会会場の取材、撮影をご希望の場合には、事前にご連絡ください。